飛騨匠ストーリー

1300年前に遠く奈良の都に赴くことになった飛騨の人々。
そこから、飛騨匠の物語が始まり、
その技と心が現代の飛騨の地にも息づいています。

1300年前～
都では、「養老令」という法律で、
飛騨の人たちは、
当時の税のかわりに
その腕前をかわれ
都に働きに
行くことに
なりました。

特産として納入！
養老令

毎年100人前後が1年交替で都へ働きに行きました。
その仕事は1年に330日以上も働き、
その食料は飛騨から運ぶという過酷なものでした。

1人の炊事係
1人の大工

重労働に耐えかね、
逃げ出す者もいましたが
その中でも高度な
木工技術を
持った匠は、
有力者などに
引き抜かれ、
その技術を
発揮しました。

都での仕事を終えて
飛騨に戻った匠たちは、
都の様子や文化を伝え、
また高度な技術を持った匠は、
都や日本各地でも活躍し、
「飛騨匠」の名を
広めていきました。
中世末期以降には、「飛騨匠」は、
高度な技術を備えた名工の代名詞と
なっていきました。

やがて、飛騨匠たちによって、
都の数々の建築物や
神社仏閣等が
建てられて
いきました。

そして現在

現在は、
高山祭の春・秋の屋台や
町並み、神社仏閣、
飛騨の家具や飛騨春慶、
一位一刀彫などに
その技やこころが
受け継がれています。

日本遺産とは？

地域の歴史を物語る ストーリー のこと。

地域の歴史的魅力や特色を通じて
「文化・歴史を語るストーリー」を
国（文化庁）が「日本遺産」として認定するものです。
高山市の日本遺産として
「飛騨匠の技・こころ
―木とともに、今に引き継ぐ1300年―」という
ストーリーの内容で平成28年4月に認定されました。
国府町にも多くの日本遺産を構成する文化財があり、
「飛騨匠」の技術や精神が受け継がれています。

万葉集にも詠まれた飛騨匠の心が1300年後の今へつながっています。

奈良時代、税を免ずるかわりに
木工技術者を都へ呼ぶ
全国唯一の制度が、飛騨に定められました。
優れた腕を持った飛騨の職人たちは、「飛騨匠」と言われ、
高い技術と質素で実直な心意気が
今も飛騨の人々に受け継がれています。
「かにかくに・・・」は万葉の恋歌ですが、
"わき目も振らず、一心な飛騨匠が打ち出す墨縄のように
私の想いも一途です"と詠み込んだ
万葉人のロマン"を感じることができます。

かにかくに
物は思はじ 飛騨人の
打つ墨縄の ただ一道に

（記：笠女郎 万葉集 作者不詳）